

# 法人よつば たより

## No.11

発行：社会福祉法人 よつば

発行日：2021年 7月 1日

ホームページ：<http://www.kashiwa-yotsuba.jp>

### ☆ご挨拶

新型コロナウイルスの感染拡大が、あるいはワクチン接種拡大が先になるかを気にしながら過ごしています。昨年は見送った講演会や法人内部研修を、この秋にはぜひ実施したいと願って準備を始めます。

五月末から六月にかけて、定期の理事・監事会と評議員会を開き、現在の役員の方たちであと一期、法人としての役割を継続することと協力し合います。

中期計画において、「生活介護事業」の開設を目指すことになっていますので、準備委員会を立ち上げました。メンバーは五名です。これから他法人の事業所の見学をさせて頂き、当法人の生活介護プログラムや特色を決める作業に入ります。開設目標は、来年の七月頃です。

### ☆障害者の体験や思い



・柏市在住 Pさん

私は「自分が障害者である」と認めるようになったのは、つい最近のことです。障害者年金を受給し、障害者の通う作業所に通っているのに、「障害」を認めること

はとても難しいことでした。ですからこれ迄家族の言葉にも、作業所の職員の言葉にも抵抗がありません。しかし、表面的には言葉にも表さず、態度にも見せないようにして隠していました。

なぜなのかと考えてみたとき、それはやはり「プライド」だったと思います。一応大学は卒業していますし、身体も健康です。ですから、障害者扱いされることに腹が立ちました。薬は飲んでいますが、今まで暴れたことはありません。家族を殴ったこともありません。その私が、「障害を認められるようになった」のは、障害者の友達が障害を認めないのは、「自分もまた障害者を馬鹿にしているからだ」と語った言葉でした。

友達は、差別されていることに腹を立てていた自分もまた、差別心があることに気づかせてくれたのです。そのおかげで気持ちが楽になり、妙なツツパリが薄れていくのを感じています。今でも気持ち不安定ですし、疲れやすいですし、一日エネルギーが持ちません。確かに私は、健常者とは言えません。しかし、まだ人生はたくさんありますので、自分らしい生

き方を見つけれたいと思います。

両親は、私への期待を以前ほどしなくなりましたので、少しずつもめることも減りました。内心すまないとはいいますが、病気でこれから理解してほしいと思います。将来何とか親孝行が出来ればうれしいですが・・・。

### ☆家族の思いと願い

・流山市在住 Qさん



子どもが精神障害だと分かった時、私たち両親のショックはとて大きいものでした。(本人はもつと悲しかったと思いますが)親しい人からは、「あなたの育て方の問題」とか「なぜ今まで気づかなかったのか」などと言われて、話したことを後悔もしました。訳も分からずただ混乱している中で、私も具合が悪くなりました。夜眠れず・元気も出ず・やる気も無くなりました。病院では「うつ病」だと言われて、薬を飲むようになりました。人の話を聞き、本を読む中で、やがて子どもの病気のことを少しずつ理解できるようになり、私自身の覚悟もでき、家族会の人とも繋がりが出来て、薬を飲む量が減ってきました。今では調

子が悪い時だけ、頓服として使います。

子ども自身も多くを失います。進学をあきらめ、就職もままならず、結婚して家庭を持つことも難しくなりました。友達はみんな自分の夢を実現していきます。子どもの悲しみはとても大きいものです。私たち親にとつても、子どもに期待していた夢を多く諦めました。口には出しませんが、私たちもつらい時を長く過ごしました。人と比べることは良くないことですが、兄弟や親せきの子どもを見ると、私の心は痛みます。

それでも私たちは親ですから、子どもの苦しみを黙って見てはいられません。私たちが元気でいる間に、残される子供の生活のため、少しでも多くお金を残したいですし、相談相手を見つけておきたいと思っています。以前から見ると、子どもも自分のことがわかっていくようで、落ち着いてきたのが励みになります。私たちには子どもが他にいますが、その子には自分の人生を歩いてほしいので、障害者の兄弟を頼むつもりはありません。別々の人生です。



### ☆発達障害者の

#### 「当事者会」が始まる

今から三年ほど前に、「発達障害者の家族会」を協力して流山市に作りました。精神障害者の家族とは、やはり違った課題を持っているためです。現在、毎月の定例会を第二土曜日の十時から、流山市の初石公民館で開催していますが、およそ十名の方が集まっています。その中に、当事者の方も参加されるようになりました。しかし、家族と一緒に遠慮もありますので、別の集まりを持つことが必要と考えるようになりました。

まだ始まったばかりですので、宣伝もこれからです。とりあえず、柏市と我孫子市と野田市と流山市の障害担当窓口にチラシをもって案内を始めたところです。「話し相手が欲しい」「自分の居場所が欲しい」などの方がおられましたら、ぜひ紹介をお願いします。

- ・いつ 毎月第四日曜の午後一時から
- ・どこで 流山市の初石公民館にて
- ・問い合わせ 勝本まで

090-3696-1589

### ☆家族会の課題

#### 「親亡き後に備える」

精神障害者家族会「よつば会」で、いつも課題として挙げられるのが、「親亡き後」のことを、親が元気なうちに目処を付けておきたいということです。障害者本人が苦手とすることの一つが、「人間関係を築く」ということです。このため、万一親が病気になる、高年齢者施設に入居したり、亡くなってしまうときに、「明日からの生活を誰と相談するのか」という課題が現実となります。

普段通う日中活動先があれば、相談支援事業所が決まっていれば、後見人が決まっていれば、その人と相談が出来ます。しかし、そのつながりが無いときはどうすれば良いのでしょうか。自宅やアパートで独り暮らしをするのは、幾つもの解決すべき課題があります。そんな時、誰と相談するのが最初の課題です。

親が元気なうちに、ホームヘルパーや訪問看護の方を自宅に来てもらっていけば、当面のつながりは作れます。相談支援専門員や社会福祉協議会の日常生活自立支援事業の生活支援員とのつな

がりも貴重な存在です。また、家族会同士で何かの時には「連絡網」を作っておいて、助け合うのも有効です。行政による「福祉サービス」を利用するために、つなぎ役をしてくれるパイプを作っておけば、あとは本人自身が動け出せます。障害者本人は「いざという時」には、持っている力を發揮する人が多いものです。

### ☆法人よつばの利用者募集

- ・就労継続B型 青い鳥(大津ヶ丘)と、よつば工房(柏の葉)いずれも数名の利用者を募集
- ・就労継続支援A型 かのこの(柏市大井)お弁当を作る事業所です。数名募集します。



※よつば会家族会(柏部会)  
日時：七月二十四日十二時半  
会場：パレット柏 コミュニ

※よつば家族会(流山部会)  
会場：初石公民館 講義室  
日時：七月二十三日午前十時